

認知症施策推進計画策定に 向けた取り組みについて

認知症のある人と家族等との懇談会報告など

区認知症施策の検討について

○区市町村の認知症施策推進計画（努力義務）

- ・ 認知症基本法第13条

国が策定する「認知症施策推進基本計画」と、都道府県が策定する「認知症施策推進計画」を基本として策定すること

○練馬区認知症施策推進計画

第10期 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和9年度～令和11年度）の策定に合わせ、同計画内に包含する形で策定

○計画策定にあたって

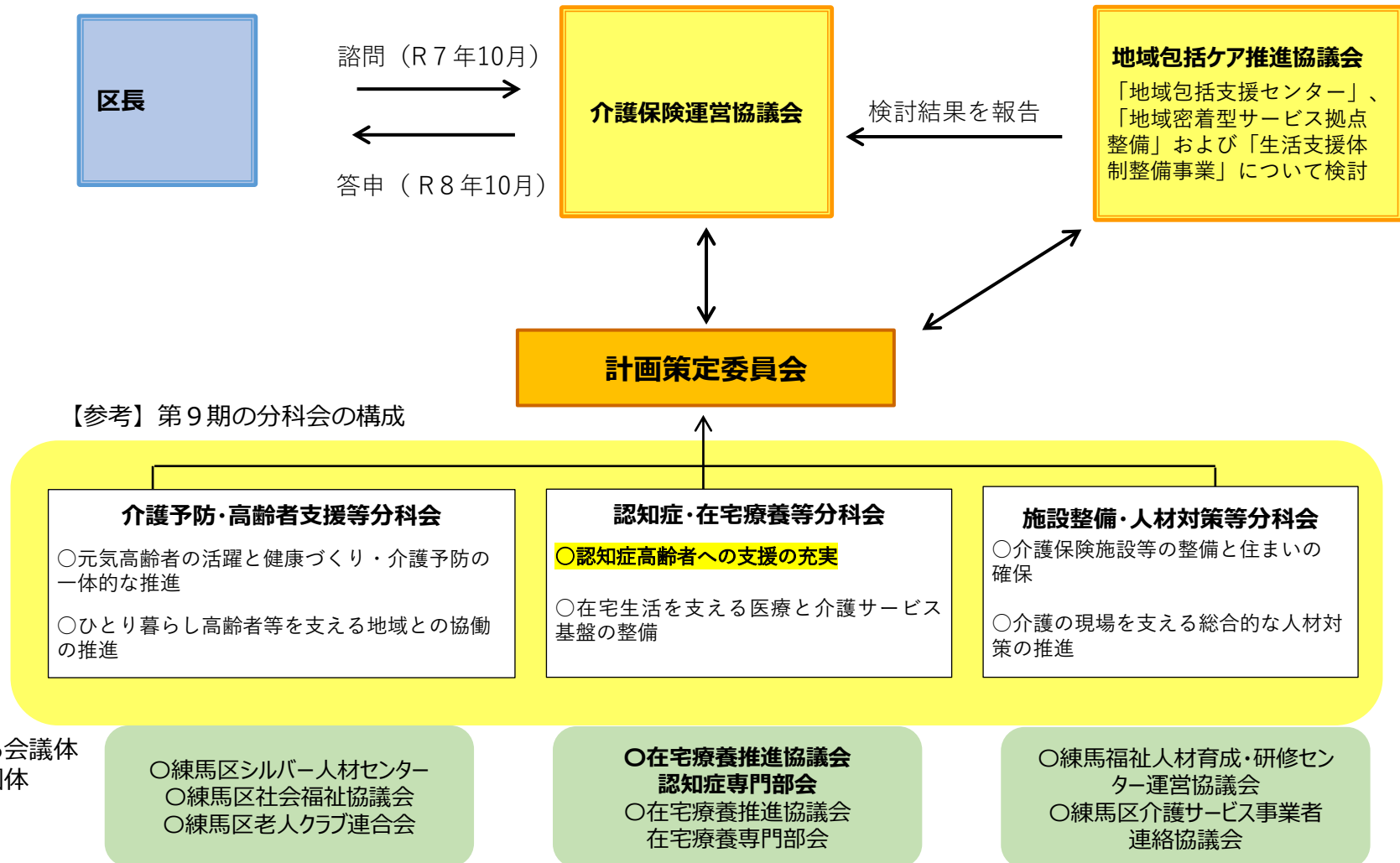
- ・ 認知症基本法第11条

計画の案を作成しようとするときは、あらかじめ、認知症の人及び家族等の意見を聴くよう努めなければならない。

第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画検討体制のイメージ

令和7年度 第5回練馬区介護保険運営協議会資料

- 第10期計画策定に向けた提言等を行うため、区長の附属機関である介護保険運営協議会および地域包括ケア推進協議会が各々の所掌する課題について検討する
- 各審議機関による検討結果についての回答を踏まえ、介護保険運営協議会で答申を作成する



分科会の構成

令和7年度 第5回練馬区介護保険運営協議会資料

1 介護予防分科会

【施策】元気高齢者の活躍と健康づくり・フレイル予防の推進

- ・元気高齢者介護施設業務補助事業など
- ・街かどケアカフェなど
- ・高齢者みんな健康プロジェクトなど

2 高齢者支援分科会

【施策】高齢者を支える地域との協働の推進

- ・地域包括支援センターの増設・移転・担当地域の見直し、孤独・孤立対策など
- ・生活支援コーディネーター体制の拡充など
- ・ひきこもり、8050世帯、ヤングケアラーへの支援など
- ・終身ケアなど

3 在宅介護分科会

【施策】在宅生活を支える医療と介護サービス基盤の整備

- ・地域密着型サービスの整備など
- ・ACPの普及啓発など

4 施設介護分科会

【施策】介護保険施設等の支援と住まいの確保

- ・特別養護老人ホームの大規模改修費補助など
- ・住まい確保支援事業 伴走型支援など

5 人材対策分科会

【施策】介護の現場を支える総合的な人材対策の推進

- ・介護従事者養成研修の実施など
- ・練馬福祉人材育成・研修センター事業など
- ・介護現場のDX化の推進

6 認知症分科会

【別章】認知症施策推進計画

令和8年度のみの実施

7 介護保険事業分科会

【別章】介護保険事業計画

スケジュール（予定）

令和7年度 第5回練馬区介護保険運営協議会資料

※分科会設置から答申まで

年度	月	介護保険運営協議会	計画策定委員会	区議会	調査等
R 7	10月	第5回 諮問、基礎調査実施の報告	第3回 分科会設置・基礎調査実施の報告		分科会による検討の開始 ※ 令和7年度 4回実施予定（介護保険事業分科会を除く）
	11月				高齢者基礎調査開始
	12月				
	3月	第6回 基礎調査結果の報告	第4回 基礎調査結果の報告		高齢者基礎調査まとめ
R 8	4月	第7回 課題検討			分科会による検討の継続
	5月	第8回 課題検討		調査結果の報告	
	6月				
	7月	第9回 課題検討			
	8月	第10回 答申作成	第5回 分科会報告		
	9月				
	10月	第11回 報告書・答申の提出			答申

区認知症施策推進計画策定にあたって

○認知症のある人および家族の声・意見を集める取り組み

- ・ 本人ミーティング（認知症の本人同士が話し合う場）や認知症カフェなどに参加する認知症本人からの声・意見を集める。
- ・ 認知症家族会などで、家族の声・意見を集める。
- ・ 日頃から認知症本人や家族の相談支援を行っている、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員や、介護事業者等と協力して行う。

○認知症施策推進計画策定に向けた「懇談会」の開催

- ・ 集めた声・意見をもとに、関係者による懇談会を実施。
- ・ テーマを設け、それぞれの立場で意見を出し合う。

認知症施策推進計画策定のための懇談会の開催



令和7年9月17日（金） 本庁舎地下多目的室

懇談会の様子とテーマ

懇談会参加者

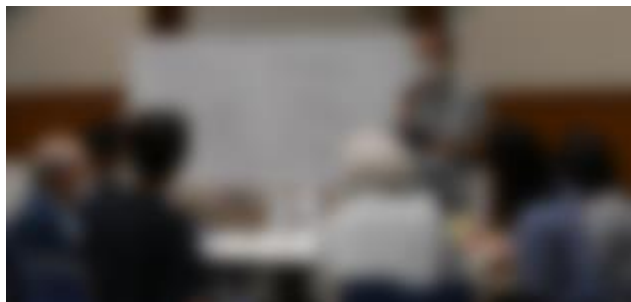
■有識者：日本大学文理学部 内藤教授

■認知症のある人

■支援者：ボランティア・認知症家族会・介護事業者・認知症地域支援推進員

○集めた声や思いを踏まえ、認知症の本人が話しやすいようにテーマを設け実施。

○テーマは、「外出」「社会参加」「意思決定」「理解普及」「希望」



東京都認知症施策推進計画の考え方

東京都認知症施策推進計画概要版より

計画の理念

認知症があってもなくても都民一人ひとりが相互に尊重し、支え合いながら共生し、
認知症になってからも尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる東京の実現

認知症は誰もがなり得ることから、都民の認知症に対する理解を深めることにより、認知症のある人やその家族等が良い環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症があってもなくても、同じ社会の一員として地域とともに創っていく必要があります。



5つの重点目標

【社会参加】

① 認知症のある人・家族等の参画と社会参加の推進

【地域づくり】

② 認知症のある人も含めた都民一人ひとりが安心安全に、希望を持って暮らすことのできる地域づくり

【相談支援】

③ 認知症のある人・家族等に対する適切な支援

【治療・ケア】

④ 認知症の早期診断・早期支援、治療・ケア（介護）の充実

【研究】

⑤ 認知症の発症メカニズムの解明、診断・治療、共生社会の推進等のための研究

重点目標を推進するための基本的施策

1 認知症のある人に関する都民の理解の増進等

2 認知症のある人の生活におけるバリアフリー化の推進

3 認知症のある人の社会参加の機会の確保等

4 認知症のある人の意思決定の支援及び権利利益の保護

5 相談体制の整備等

6 認知症の早期の気づき、早期診断・早期支援

7 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等

8 研究等の推進等

1 認知症のある人に関する理解の促進

○区民の理解

（支援者）認知症になっても怖くない。変わらないことを伝えたい。

（支援者）認知症の方が一人で外出すると、周囲から「なんで介護サービスを使わないの」と批判的な目で見られてしまう。地域住民も含め、皆が「新しい認知症観」の考え方になっていかないといけない。

（支援者）認知症になっても「普通に暮らしていいんだよ」となって欲しい。

（支援者）母が施設に入っているが、入所者の中に認知症を嫌がる人、怖いと思っている人がたくさんいる。早く「新しい認知症観」が広がって欲しい。

（支援者）希望大使の発信によって、認知症のことを知り、居場所などを知るきっかけになる。

（支援者）家族が認知症であることを隠したいという人もいる。「痴呆」のイメージが変わるとよい。

（支援者）凶暴性のイメージがあったが、包括が行う講習に参加してイメージが払拭された。払拭しない限り、前に進めないと思う。

○子どもの理解

（支援者）子供のうちから、年を取っていくこと、認知症のことを学ぶ場をたくさん作ることが大切。

2 生活におけるバリアフリー化の促進

○マップの作成

(支援者) お出かけできる場所の情報を可視化して欲しい。

(支援者) 家族会と認知症カフェのマップに加えて、本人ミーティングのマップも作成して欲しい。

○日常生活

(支援者) 銀行の窓口で認知症のある方が困っていると、店員が怪訝な顔をする。介護者が説明すると「出歩かせるな」と言われたことがある。

(支援者) 認知症のある人を緊張させないような優しい対応ができると良い。

(支援者) 夫がゴミ出しを間違え、集積所の前の家には申し訳ない思いをしていたが、思い切って認知症であることを伝えたところ、とても優しい反応をしてもらえ、気兼ねがなくなった。

(支援者) 認知症のある方が、食べこぼしが原因で飲食店を出入り禁止になった。

(支援者) 警察や商店、銀行の方なども一緒に、こういった懇談ができると良いと思う。

○アクセス

(本人) 自転車で行けるから参加できている。遠いと参加できない。

(支援者) 安心して通える環境を整えて欲しい。一人で来れない方のために、送迎の仕組みがあるとよい。

3 社会参加の機会の確保

○外出のきっかけ

（支援者）桜の花見、公園の紫陽花など、季節の花を妻と一緒に見に行くことが楽しみでもあり、外出のきっかけになる。

○仲間との活動

（本人）仲間と一緒に活動をしたい。仲間がいるからできる。すべて一人ではできない。

（本人）人の話をたくさん聞きたい。世間話でいいと思う。

（本人）施設に入っているが、入所者同士の交流の場が欲しい。施設に入ったら、皆あきらめちゃうが、交流の場で話をして、そこから社会に貢献できるようなことを地域に出てできるといい。

○開催方法など

（支援者）家族会は、「この日、ここに行けばいつもの仲間に会える」という場。同じ場所・曜日の開催をすることにより、参加者の安心感がある。

（支援者）同じ時間に同じ場所に行くと、そこが公園であっても同じ人に会って、仲間ができる。

3 社会参加の機会の確保

○どんな場所が必要か

（本人）近所の公園が自分の田舎にそっくりで落ち着く。一人一人、その人に合った場所がある。

（本人）図書館が安心できる。自分のペースで過ごせて、顔の見える関係も築ける。

（支援者）まちかどケアカフェのように、初めての人を受け入れてくれる場所の存在がとても大切。

○ボランティア

（支援者）認知症サポーターの活躍の場が欲しい。サポーター同士の交流の機会があると良い。

（支援者）認知症のある人と、早朝の空き缶拾いをやっている。すれ違う方と挨拶をすると気持ちいい。

○インセンティブ

（支援者）清掃活動などの社会参加をすることで、報酬を得る事例がある。

4 意思決定支援および権利利益の保護

○地域での暮らし

（本人）認知症が進むと病院や施設に入れる、ということもあると思う。そして、家族は大変だとは思いますが、自分の父親がそうだったように、最後まで自宅で暮らし続けたい。

○支援者側の意識

（支援者）本人が、地域での活動に参加し続けたくても、介護サービスが導入されると、そちらが優先されてしまうことが多い。ケアマネジャーの協力が必要だが、本人の希望に寄り添い、地域活動に参加し続けられるような意識を持って欲しい。

（支援者）夫はできないだろう、と勝手に決めつけいたことを後悔している。楽しみを潰してしまった。

○認知症のことを周囲に伝えるか

（支援者）夫婦で、認知症になったらオープンにするかどうかを、話し合っている。近所の方には早めに言いたいと思っている。家族内の話し合いも大切。

5 相談体制の整備

6 認知症の早期の気づき、早期診断・早期支援

7 保健医療サービス・福祉サービスの提供体制整備

○ピアサポートについて

（支援者）夫を（本人ミーティングに）連れて行き、他の人と関わることでリセットされて、私を見る目が変わって優しくなった。

（支援者）包括から、家族会を紹介してもらって、いろいろな話を聞けるようになった。家族会の場で話をすることで「孤独ではない」と感じられた。家族会に繋がれなかったら、孤独だったと思う。

（支援者）家族会は、皆が当事者。参加者の共感が得られることが嬉しい。

（支援者）コロナ以降見学会が出来ていないが、知らない人に是非、家族会を見学して欲しい。

○相談できる場

（支援者）包括や介護事業者から、妻のサービスのいろいろな情報を得られて助けられている。

都計画と練馬区認知症施策

東京都認知症施策推進計画の基本的施策項目と区認知症関連事業について

	都計画 基本的施策	主な区事業
1	都民の理解	認知症サポーター養成講座 N-impro 認知症月間イベント
2	バリアフリー化	認知症サポーター養成講座 N-impro（再掲） 認知症高齢者位置情報提供サービス
3	社会参加	チームオレンジ活動
4	意思決定支援・ 権利擁護	成年後見制度 A C P、終活
5	相談体制の整備	医療と介護の相談窓口 介護なんでも電話相談、介護相談・交流カフェ
6	早期の気づき、 早期診断・早期支援	もの忘れ検診 認知症予防プログラム 高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業
7	保健医療・福祉サー ビスの提供	認知症疾患医療センター・順天堂練馬病院との連携 多職種連携会議
8	研究	認知症疾患医療センター・順天堂練馬病院との連携（再掲）